

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 2 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会		
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)	
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)	
	公園課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 3 (直通)	
開催日時	令和 3 年 9 月 1 9 日 (日) 午前 9 時 3 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分		
開催場所	W e b 会議		
出席者	市民検討会 委員	1 6 人 (1 1 ページのとおり)	
	有識者協 議会委員	6 人 (1 1 ページのとおり)	
	その他	0 人 (各施設担当者)	
	事務局	1 2 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 9 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会議次第	<p><開会あいさつ></p> <p>1 今後の進め方に関する意見聴取結果について (全体を通した資料説明)</p> <p>2 1 2 月末までの進め方について (協議・決定)</p> <p>3 第 1 3 回以降の検討内容について (意見交換)</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎市民検討会委員の発言、○は有識者協議会委員の発言、●は事務局の発言）

1 経 過

生涯学習課長による開会の後、要綱第5条第3項及び第6条第1項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長の進行のもと、傍聴の確認を行い、事務局から次第について説明し、その後、質疑応答を行った。

2 議 事

- (1) 今後の進め方に関する意見聴取結果について（全体を通した資料説明）
- (2) 12月末までの進め方について（協議・決定）
- (3) 第13回以降の検討内容について（意見交換）

< (1) に関する説明 >

事務局から資料を基に説明を行い、(2)について一人ずつ意見をいただいた。

< (2) に関する意見交換 >

- ◎ 淵野辺駅南口を次世代に残すとはどういうことかまず考えたいと思っていた。今ある施設をそのまま維持することが難しいと考えている。その場合どういう手立てをしていくか検討するにあたっては、②（本年12月末までに、パターンに関する議論を尽くし、より具体的な検討は、次期市民検討会に委ねる。）の取組みが必要と感じている。その他、①（早い時期にパターンに関する議論を終え、より具体的な検討を始めたところで、次期市民検討会委員へ引き継ぐ。）も関連で検討会として成果を期待できると考えている。
- ◎ オンラインではイメージが掴めず、今後は時間がないこともありグループワークがないと、まとめるのが難しいと感じている。グループワークを経て意見をまとめていくものと考えている。また、市から提供される情報が少ないと、意見をまとめるにあたって後手後手となってしまうため、現実的に出来ることと出来ないことについて、わかっている部分はどんどん発信して、議論が円滑に進めるようにしてほしい。
- ◎ 公園に集約するパターンがいいと思う。予算が無い中で事業を行うので、駅周辺の跡地は売却し公園に集約することができればと考えている。12月末までの進め方については、色々な意見があってもまとめるのが難しいため、とにかく議論を活発に行い次の委員に委ねればいいのかではと思っている。

- ◎ 公園集約という話を伺い、次世代に残すということから、改めて市民アンケートのまとめの若い世代の回答を見て思ったが、現在地維持パターンについて共感できる意見が多く、自分が感じたのと同じだったので、市民アンケートの結果として共感の高い部分について進めていく必要があると思う。また、実際の事例や図書館を建て替えではなく、リノベーションできるのかといった具体的な話をしていきたいと思う。
- ◎ 12月末までの進め方については、②に意見が集まっており、みなさんがこういう風に、感じているのだなと思った。
- ◎ 期間が短く知識がないため、専門家がいてほしい。また、進めていくにあたり、ファシリテーターをお願いしたい。私たちの発言に対してサポートしてくれると話が進むのではないかと思っている。12月末までの時間がないので、あと何回検討会ができるのかといった不安はある。
- ◎ 資料のたたき台について、ゼロから議論をするよりもたたき台があると考えやすい。市民の方は、こういった会に直接参加できず、市民アンケートでしか参加できない。アンケートをひとつひとつ読み返すと、関心を持っている方が多く、自分たちのまちをととても大切に考えているのが伝わった。委員が予算等を考慮しながらパターンを絞っていくことは大事だが、市民が将来的に足を運ぶとか、居場所になるといったイメージが湧かないと、関心を持つのは難しいため、イメージを明確化することも大事だと考える。他の委員もグループワークについて意見があったが、オンラインでの会議は不慣れな部分がある。意見が交差してこそ、考えがまとまり、発展すると思っているため、そういったことができる環境があれば良いと思った。
- ◎ 12月末までの進め方における②の中でもこんなに話があるのだなと思っている。最初のワークショップに参加したときから進展してないと感じている。まとめたことを今後、検討して意見を出し合うことが大事だと思う。
- ◎ コロナ禍になってリモートでの議論となっているが、グループワークが必要と感じている。今回の資料はわかりやすくてよかった。12月末までの進め方について②で検討していければと思っている。話を進めていく中で、予算の話が挙がってはいるが情報が足りない。気になるところなので事務局から情報がほしい。
- ◎ 4つのパターンについては、みなさんがいいという想いで作っているもの。12月末までの進め方について②がいいと思う。全体的にはどのくらいの規模ならできるという視点が必要で、4つのパターンを絞っていくにあたり、みなさんが最終的に理想というものがあるとしても予算が付かないとしょうがないと思う。どのくらいの規模なら出来るというものさし的なところを事務局から示してもらい、その上で、いいアイデアにしぼっていくなどしかないと思っている。

- ◎ オンラインでの会議ということもあり、あまり理解できていないところはあ
るが、どんなに議論をしても満場一致という案はないと思っている。満場一致
を目指すのはきりが無い。ハードの部分は専門家に任せて、議論のどこを重視
するのか等、専門家がまとめた案に対して、新しい施設がどういう役割になる
のか等のソフトの面を中心に議論していきたい。
- ◎ オンラインでの会議はコロナ禍なので致し方ないが、早く対面でのグルー
プワークが出来ればと思う。最初は施設を公園にまとめて跡地を売却したら良い
と思っていたが、会議を進めていくにつれて、地元住民の思いや淵野辺駅の北
口と南口の環境を考慮したまちづくりが必要なのかなと感じた。事業のプラン
が立たないと財源がわからないと思うので、市の方で複数パターン提示してもら
いたい。また、以前市民検討会で行ったレゴブロックを用いた検討も中途半
端に終わってしまったという認識もある。委員の中で4パターンの想像が難し
く、中身の議論も進まないの、専門家や事務局から情報を示してほしい。
- 12月までの進め方としては、パターンの議論が見えないという話もあった
ので、明確化していき、財源については市から情報を用意し、議論を尽くせる
ように進めたい。
- ◎ ①、②のどちらがいいか迷っている部分もあるが、②の「パターンの議論を
尽くし」について議論が終わるのか疑問に思った。議論が終わらなそうであ
れば、有識者や市から方針を示してもらった方が早く進むのではないかと思う。
- ◎ 市民検討会が始まる前から、淵野辺の問題に関わっており、まちづくり会議
で話していたことが基本計画（案）の基になっている。公共施設を使用してい
る利用者や市民の意見が入っていないのではということで、パブリックコメン
トを経て、市民検討会をやりましょうということになっている。そのような経
過を踏まえると、鹿沼公園の中に複合施設を入れる案と鹿沼公園をそのまま残
す案について検討会で詰めることを優先した方が良いと考える。また、可能
であれば検討会の開催方法について、グループに分かれてグループワークを行
う方が、検討する側にとってもアプローチがしやすい。
- グループワークの件については、みなさんからも意見が出ている。事務局と
してもグループワークで進めた方が良いとは思っているが、万が一新型コロナ
ウイルスに感染し、委員の皆さんの健康に何かあってはいけないので、そこは
ご理解いただき、一緒に進めていきたい。
- ◎ 次期検討会委員の方たちのことを考えると12月末までの進め方については
②の方が良いと思う。淵野辺駅の南口地区をどういう風にしたいのか、アンケ
ート等で色々な意見があったが、まとめられているのか心配である。優先順位
と淵野辺駅南口の人々の思いが優先されるべきとは思いますが、にぎわいもほしい、
公園もほしい等、全てを求めると中途半端になるのではと思う。これまでの市

民検討会の中では、有識者から「意見は言うが自分たちがどうしたいかという提案がない」という問いに対して、市民検討委員が、これがいいあれがいいといっても、最終的には予算で決まってしまう。予算で考えることは、現実的な落としどころの一つだと思うため、その情報を出していただきたい。最終的に納得せざるを得ないところもあるが、次世代に残すということ、現実的にできること、その中でベストを尽くすことができるのではないかと考えている。パターンを絞るという進め方の中で、青少年学習センターとさがみはら国際交流ラウンジの土地や建物を借用している施設はどうするのか、そこが決まらなるとパターンを決めにくい。また、譲れない点として、中央図書館の機能や規模を守りたいと考えている。

◎ 市民検討会に長く参加しているが、施設の老朽化が進み、図書館等の施設がどうなるのか、公民館等は避難場所になっていて災害も多くなっており、不安を感じている。オンラインでの市民検討会は難しいので、少人数で分けるなどして市民検討会が出来れば良いと思っている。市民検討会の次の方につなげていかなければいけないので、12月末まででまとめていきたい。

◎ 他の委員の話でどういう経過があったのか全容がわかった。今後は、もう少しソフトの面、色々な人にとってやさしいまちづくりについて話ができればと感じている。

◎ 12月末までの進め方について、自分の意見は③（令和4年1月以降も、次期市民検討会により、パターンの議論を継続する。）に分類されているが②でいいと思っている。全ての検討パターンでできるアイデアを②で進めていく中で抽出していければ十分と考える。この会が立ち上がった経緯として、公園に大きいものを建てることのアレルギー反発的のところもあったので少なくともパターンを絞り込んでいく中で、公園の中に建てるのか建てないのか、小さい建物はいいと思うが、その辺りを今期で決めて、次の委員に引き継ぎたい。また、市民検討会の開催方法として双方向性の議論ができるように事務局と一緒に模索していきたい。

● 方向性が見えてきたため、共有をさせていただきたい。検討委員同士の意思疎通がしやすい環境で行えるよう留意しながら、4つのパターンの予算を示した資料等を用意し、基本は②のパターンを絞り込んで議論を尽くしていくということで、みなさんに了解が得られていると感じているがいかかがか。

⇒異議はなかった。

< (3) に関する意見交換 >

○ 市民検討会を12月末までに何回やるのか、また、まとめをどうするのか事務局の考えを伺いたい。

● 12月末までということを見ると、毎月開催できたとしても、本日を含め

最大でも4回程度が限度と考えている。どのようにまとめていくかについては、市民検討会で今後検討するパターンを、なるべく1つに絞っていただきたいと考えている。絞ったものの成果のイメージとして、例えば、これまでの検討でメリットやデメリットをまとめたが、それに加えて、施設利用のイメージを明確化したもの、図書館や公園をどうしたいかといった、今後の市民検討会で考慮してほしいもの等をまとめたものができればと思っている。

- 予算の概算や見積りがないと議論が進まない。見積りが必要だと市民検討会委員からも出ている。次回以降、事業費の概算を踏まえながら、それぞれの4パターンで優先順位を付けて、ブラッシュアップをしていくと思うが、どういった施設でどれくらいの規模でどういった機能を搭載するか等とこれまでの検討結果を踏まえて見積りの前提条件を出して、それを市民検討会に確認をしていただいて、概算の見積りをしていく必要があると考える。
- ◎ このような計画を立てる時に、プランがあってそこから予算を出していくのか、予算を出してその中からプランを出していくのかどちらが望ましいか。
- どちらも必要と考える。大枠の方向性を出し、調整をしていかなければならないと考える。ブラッシュアップということで、理想と見積り、減額案を出していく中で優先順位を付けると思うが、これは残すとか、これは残さないという0か100かといった話ではなく、こういうことを実現したい等の目的や状況を共有し、そのために何が必要かを考える方が融通が利くのではないか。
- ◎ それぞれのパターンの事業費とか予算をつくっていただくとしても、こういう会議の前にせめて1週間前ぐらいに資料を貰えないと、イメージがつかず、話し合いにならないと思うため、そういった資料作成ができるのであれば、事前に市民検討委員に資料を送っていただきたい。現状の4パターンについて、市の方はざっと見た感じでわかるのかもしれないが、ここはどうしても難しいといった部分があれば示してほしい。市民検討委員も色々考えているが、ここは無理といったことをわかってないと、無理だったらどうするという考えにいたらない。結局ずっと同じことを繰り返してしまうので、そういったところを明示していただけるといい。
- 資料は早くお届けできるように努めていきたい。また、市民検討委員の方から実現が難しいところに関する情報も出してほしいということですので、市民検討委員のみなさんに理解していただき、議論がしやすいような資料を作成していきたい。
- ◎ 4パターンの概算を出すことは必要だとは思いますが、お金だけで決定してしまうのではという心配がある。お金がかかっても工夫することで減額し、実現できるといった議論が出来ればよい。
- 概算を示すにあたり、ざっくり大きなくくりで示すということではなくて、

それぞれの施設、パターンごとになるべく細かく提示することで、機能のところに着目して規模などを調整できる資料としていきたい。

- ◎ 公園の敷地に複合施設を建てるという案と、一方で図書館等の施設を現在地に残す案と、図書館の敷地に新しい複合施設を作る案が大体のところだとは思いますが、もう1つ、図書館の建材を再生する方法もある。公園の中に複合施設を建てるのが一番安く済み、既存の公共施設をそのまま残せば人件費や運営費等も考えると費用が個々に多くかかるというのはわかるが、再生工法であれば、建材を一部使えるので建材の費用、建築の工期が短縮できるため、当初いわれている予算も抑えられる。個人的には、図書館を単独で使うのではなくて、公民館の機能とかを合わせれば相乗効果も考えられると思う。ただ、普段公民館を使う人の情報はないため意見として出せない。利用者団体の方の意見などを集めて出していただけるとありがたい。
- 再生工法はかなりケースバイケースだと思うため、一概には言えない。個人的な意見を述べると、図書館を再生工法する価値はない。
- 図書館は暗く、施設が低くて、人が入りづらいような奥深くにあり、利用者以外の方は行かないのでは。いろんな市民の人の活動が見えるようになって、そこを利用する人以外に対してもオープンであるような、これからの公共施設の在り方に今の図書館の建物は合っていないのではないか。
- ◎ 確かに、若干入りづらく、入り口が狭いようなイメージはあるが、普段利用している人の意見を聴きたい。
- 近くを歩いていて図書館をおもしろそうと思ったことは一度もない。
- ◎ 今一度次世代に引き継ぐという目的で、今ではなく、50年後に残すということを自覚しながら発言したいし、発言してもらいたい。ソフト面の話をしつつ13回目以降に移っていければと思う。
- ◎ コロナ禍の前の図書館は駐車場が満車になり、夏休み期間も利用者が多かったので、利用者は少ないとは言えない。必要な人は来ていると感じている。確かに施設が老朽化しているが、利用したい人だけが来ている印象である。
- ◎ 再生工法について、今のままで残せと言っているわけではなく、会議室で使用しているところを違う用途で使えるように改良するとかはいいと思うので、そこは誤解のないようにしてほしい。
- ◎ 図書館を昔から利用しているものとしては、図書館はそんなに悪いところではない。図書館に人を呼びたいのか、にぎわいが必要かなのかという視点で改めて考える必要があるのではと思った。
- ◎ 図書館を1週間に1回程度は利用していたが、現在はコロナ禍において利用が制限されている。ただ、コロナがなくても、一般の利用者のスペースは限られており、図書館の書庫にある資料を開示するスペースも少なく、もったいな

いという印象がある。老朽化についていえば、公民館の空調機の改修工事があり、温度調節が各部屋で出来る等の一時的な改善はされるが、長期的に淵野辺駅南口が市民の皆さんの憩いの場として変わっていくためには、公共施設を中心としたコミュニケーションの場所の設置が大事だと思う。

- ◎ 東日本大震災のときに図書館の地下の水道管が壊れて水びだしになったこともあるため、再生というより建て替えてほしい。また、どの公共施設も同じだと思うが、最大どれぐらいの人がその施設に入るのか考えると、市立図書館に中央区の人が全部入ったらいっぱいになってしまうと思うので、利用したい人が利用するという事は悪いことではないと思う。ただ、市民のみなさんに集まってほしい場所にしたいという思いはある。公民館の利用者の話も出たが、施設の管理者の方たちはどう思っているのか、意見を聞きたい。その他、公園について公共施設の設置の可否についても知りたい。
- ◎ 老朽化とか、使い方とかのことを考えることも必要だが、次世代のために淵野辺駅南口をどうしていくかということがポイントであり、今の私たちから見た次世代は、今の若い世代になるが、5年後10年後になったら、どんどん次世代が継続していく。そういったときに、関心のある人たちだけが集まるというよりは、子育てをしている方、ご年配の方、通勤中の方等色々な人が行き交い、それぞれの存在を知り、淵野辺には多くの人がいると感じられることが大事だと考える。それぞれの存在を知ることによって、人にやさしいまちとはどういうものか、自分たちで考えられるようなことが次世代に引き継ぐことになると思う。そのようなことを考えながら次のプランを考えられればと思った。
- ◎ 次回以降話を進めるにあたって、今までの話をもう一度振り返り、発足時の経緯などを再確認し、また、市民アンケートをもう一度熟読した上で、進めていくべき。淵野辺駅の南口をどういう風にしたいのかが大切だと思った。市民アンケートを熟読している中で、「50年、人間も高齢になるとあちこちガタがきます。いずれも対策しなければいけない問題なので、次世代が喜んでくれる、淵野辺駅南口をよろしく願います」とあるので、これに沿ってみなさんと意見交換ができればと思う。
- ◎ まちの方向性について、まちに高い愛着を持っているので、良いものは残しつつ、悪いものは更新をして、鹿沼公園と公共施設を活かしたまちの魅力アップという話まではいったが、その後の細かい話が出来ていない。今決めなければいけないことは、残り3回で何をどう議論するか、どこまで持っていくかというところなので、最後まとめを作るとすると、事務局がいう一つのパターンに持っていくのは時間が足りないと思う。また、提案ではあるが、検討会の前に準備会合、プレ会のような形で有志だけでも参加する場を作る等はどうか。
- ◎ 12月までどこまでまとめるのか話をした方がいい。

- 可能な限り、市民検討会で議論をしていくパターンは1つに絞っていく形にまとめていただければと考えている。そういった方向に議論が進むように施設管理者の意見や利用者の意見、財政の話もありましたので、事務局としてしっかり準備をして、みなさんに絞り込みの議論をしていただければと考えている。事務局として提供できる資料は出していくが、これまでの資料を再確認するなど、みなさんも出来ることはやっていただき次回以降の検討会に臨んでいきたい。
- ◎ 「絞り込みポイント」の「各検討パターンのメリット、デメリット」がわかりやすい。今までの市民検討会では、グループごとに分かれていたため、自分のグループについては理解していたが、他のグループについて、発表はあったが記憶に残っていないため、まとめがあると検討しやすいと思った。
- 検討は続くので、限られた時間の中で絞り込むのは乱暴な印象がある。一方で大事なものは、今期でどこまで到達したか。絞るというよりは、それぞれの案について、利点や利用者の方の立場で危惧することをまとめないと、次期もまたゼロからに戻ってしまう恐れがある。議論の進め方に戦略がなく、何を議論するか示しながら進めないと終わらない。それは、今ある案から選ぶのではなく、場所とか、複合するしないとかは決まってしまうかもしれないが、中心となる案に、他の案の良い要素を入れて進化していくのが理想である。そのためには、それぞれのパターンのメリットや気持ちを整理しておく必要がある。個人的な意見として、愛着があるなしではなく、建物が何十年も必要かどうかという観点は必要と考える。コストもかかる、建物も古い、また、昔とは文化施設の用途が変わってきている中でそういうことをあきらめて古い施設にこだわるのか、場合によっては新しく作り変えた方が、長期的なコストがかからないとか、色々な用途で利用できるようにするといったことを踏まえて、残す残さないを議論しないといけない。あまりセンチメンタルになりすぎない方が良いと思う。
- パターンを絞り込んでいく過程の中で、何を議論するのか整理をしながら、分かり易く、共通の認識を持てるように、資料の作成に気を付けていきたい。今すぐには、こうですと言えないところがあるので、次の会までの間に意見を伺うなど、限られた時間を効率的に活用して進めていけるように、市民検討委員のみなさんにお伺いしたり、確認しあったりしていきたい。
- ◎ 目安として12月の会の前に最終案送っていただいて、当日は次期に引き継ぐこと案を作り上げる場として12月の最後の会を迎えたい。
- 市民検討委員のみなさんいかがでしょうか？
⇒異議はなかった。
- まだご意見があるとは思いますが、様々な観点で見なければいけない

ということが色々な方のご意見でわかったと思う。一点、社会教育や生涯学習の支援という専門的な立場から申し上げますと、図書館や公民館については、建物がどうという話ではない。そこがどういう風に使われているのか、建物がどのような目的で建てられているのかについても考えなければいけない。公民館がこれまで培ってきた住民の学習支援がどういう風になるのかが重要であって、ただ人が集まればいいという話ではない。総合的に考えていかなければいけない。4つのパターンだけでなく、その上位の考え方も加えて、どのパターンがいいか検討するため、12月までに完結ではなくて、こういう議論が残っているという提案があってもいいと思う。

- パターンを絞り込んでいくということについては、方向性が共有できたと思っている。まずは、次回第13回に向けて、事務局で考えながら資料を作っていく、早い段階で委員に示して事前確認をいただけるような時間を取ることや、手直しを事前に行い、限られた時間の中で、効率的な議論に結び付くように努めていきたい。資料の作成に当たっては、本日配布資料の5ページを基に、ご意見のあったものをなるべく盛り込みながら準備をしていく。本日の会議の中では、みなさんと一緒に考えることができたと思っている。
- 各委員からも話があったが、これまでの検討会の話の中で回収されている話と回収されていない話があると思うので、それをフロー図で示していただけると、次回参加する際に分かり易いかと思うため、整理も含めてお願いしたい。

以 上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
植田 憲司	出席
茅 弘秋	出席
今 美和子	出席
佐野 玲希	欠席
白石 一郎	出席
畑 耕一	欠席
松下 和則	欠席
山林 亮太	欠席
渡辺 章	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
太田 裕	出席
小方 明	欠席
小野澤 行雄	出席
上遠野 イク子	出席
金 愛蓮	出席
佐伯 明美	出席
高柳 眞木子	出席
平本 峻	欠席
靱井 結希	出席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
城田 大介	欠席
狭間 宏明	欠席
北條 幸治	欠席
島津 陽子	出席
山口 清孝	欠席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
押田 佳子	出席
小島 仁志	欠席
小山 憲司	出席
杉崎 和久	出席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	出席
山口 直也	出席